

## 巻頭言② 日本フラックス成長研究会の発足を記念して

### 日本フラックス成長研究会の発足に関して

#### (On the Start of The Flux Growth Society of Japan)

岡 田 繁\*



私が長いこと結晶合成の研究を重ねてきた人工結晶討論会は、2005年11月の日本結晶成長学会と統合した結晶成長国内会議の第50回の討論会開催をもって終結し、2006年度から新しい日本結晶成長学会として立ち上がりました。それに伴って、結晶合成の中で、色々な分野から独立した結晶成長の研究会として、日本フラックス成長研究会を発足することになりました。私個人の研究生生活を振り返ってみると、昭和50年(1980年)から結晶合成を開始し、約26年間経ちました。この間、私はメタルフラックス法による共有結合性を有する結晶や金属間化合物の結晶合成を試みてきました。即ち、遷移金属あるいは希土類金属のホウ化物、炭化物、ケイ化物などで、それ以外にも同法を用いて最近話題の多い酸化物( $\beta$ - $\text{Ga}_2\text{O}_3$ )単結晶の育成も行ってきました。その研究過程で研究指導者の先生(元理化学研究所主任研究員・後に神奈川大学工学部教授 故阿刀田徹三先生)を知り、また数多くの友人と知人(元理化学研究所研究員・後の元千葉工業大学教授 東 以和美先生, 物質研究所元総合研究官 田中高徳博士, 神奈川大学工学部 工藤邦男先生, 東京工芸大学工学部 飯泉清賢先生)と研究面で接する機会ができ、研究の協力体制ができあがりました。この研究期間に、メタルフラックス法で合成した新規ホウ化物は数種類で、種々フラックスを用いて金属間化合物単結晶の合成を数多く作製し、現在に至っています。また結晶成長分野の学協会と人工結晶討論会などを通して、研究仲間の二人の先生と知り合いになりました。二人の先生は、色彩や自形の綺麗な人工結晶に惚れ込んで真面目に結晶育成に取り組んでいます信州大学工学部の大石修治先生および東北大学金属材料研究所の宍戸統悦先生です。両先生と私は、結晶成長の研究を通じて研究グループの意識が芽生え、念願でありましたフラックス法による結晶成長の新しい研究会を立ち上げることになりました。本研究会の発足は大石先生と宍戸先生の御尽力による大きな力となっています。本研究会のタイトルは、フラックス成長となっていますが、フラックスと言っても結晶の成長過程で必要な方法、熔融方法で化合物合成が可能なものや結晶育成に必用な装置などを指します。即ち金属間化合物、酸化物、ホウ化物、窒化物、硫化物などの化合物、媒介体なしでの結晶あるいは粉末や膜などの化合物やそれらを作製するために工夫した装置で、物質としては無機と有機化合物が前提となる研究会です。従って、若い研究者も本研究会に入会して頂いて、結晶を主体とした意見交換と研究交流の場であって欲しいと願っています。本研究会の開催日は、12月第1週目の金曜日と決めて行きたいと考えています。勿論、研究発表の方法は、我々の意見だけではなく、若い研究者や学生諸君達のご意見を受け賜りながら研究会の運営を進めたいと思っています。研究発表会は、特別講演、オーラルとポスターによる講演で、それ以外に素晴らしい講演企画を考えています。講演の内容によっては若い研究者の奨励賞やポスター賞あるいは綺麗な結晶と新規結晶を作製された方々には技術奨励賞などを設けたいと考えています。是非、多くの研究者や技術者達が日本フラックス成長研究会にご賛同されて入会して頂けることを切望いたします。これからも皆様より、ご支援・ご鞭撻を頂き、より良い研究会として発展していくものと念じて、初心のご挨拶とさせていただきます。

\*Shigeru OKADA, 国士舘大学工学部